

情報判定シート

情報判定シート

題名	情報収集の視点			④検討に見合う情報か	⑤総合的な検討の必要性	⑥緊急な情報提供の必要性	自由意見
	①健康被害の未然防止	②危害の拡大防止	③正しい情報提供				
資料2-1 寄生虫による食中毒防止について	○	○	○	○	○2	○	—
	×	○	○	○	○1	○	①健康被害が出ている。 ②最近見い出された寄生虫もある。 広く知らせる疾患である。
	×	○	○	○	○1	○	輸入された養殖ヒラメによるクドアが原因と考えられる食中毒については検討・情報提供が必要ではないだろうか。(新聞などでもそのために養殖タイの値段が上がったことなどが記載されており、正しい情報が必要と思われる。) アニサキスについては単発事例が多い。食材が多岐にわたるため、検討・情報提供は難しいと思われる。
	○	○	○	○	○1		アニサキスによる食中毒については、“食品衛生の窓”において情報提供がなしているが、その発症が急増しているようであり、またアナフィラキシーによる重篤化も懸念される。寄生虫による新型の食中毒の例も合わせ、より充実した情報提供を行うことが、厚労省通知(230617)にも合致すると考えます。
	△	△	○	○	○3	○	アニサキスに関する情報は、都民にもかなり浸透していると思われるが、ヒラメが関与したクドアによる食中毒情報は、まだ行きわたっていないように思われる。

題名	情報収集の視点			④検討に見合う情報か	⑤総合的な検討の必要性	⑥緊急な情報提供の必要性	自由意見
	①健康被害の未然防止	②危害の拡大防止	③正しい情報提供				
資料2-2 生食する機会が多い輸入魚介類のウイルス蓄積(汚染)について	○	○	○	○	○1	○	これから夏にかけて特に注意を要する。
	×	○	△	○	○3	×	①既に知られている疾患である。 ②一応は情報が得られていると思うが、続けて情報を得る必要がある。
	×	○	△	×			充分に加熱して防ぐことが予防策の第一となると、「生食」に対してどのように対応すればよいか検討が難しい。
	△	○	○	△			生食する機会が多い輸入魚介類のウイルス蓄積(汚染)については、“食品衛生の窓”においてノロウイルスに関する情報提供がなされている。A型肝炎についてはなされていないので、その情報提供も必要と思われるが、情報量が少なく、今回の検討では、他の3件に比べると優先順位が低いのではないかと判断します。
	△	△	○	○	○1	○	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査が不足しており、当該食品のウイルス汚染実態を調査することも重要である。 ・加熱によって安全に食することができるので、混乱を招くことなく都民に情報提供できると考える。 ・情報提供は、輸入業者の意識改革にも有効である。 ・米国FDAが6月14日、輸入した韓国産カキのノロウイルス汚染を指摘した。日本の輸入量は米国より多い。

題名	情報収集の視点			④検討に見合う情報か	⑤総合的な検討の必要性	⑥緊急な情報提供の必要性	自由意見
	①健康被害の未然防止	②危害の拡大防止	③正しい情報提供				
資料2-3 生食用野菜の衛生的実態調査	△	△	○	×			—
	○	○	○	○	○2	△	生産者、消費者に注意を喚起する必要がある。常に菌の種類と量のチェックをするシステムが必要。
	○	×	○	×			都民への情報提供というよりも、事業主への意識付けという内容だと思う。
	○	△	○	○	○2		ドイツで発生したO104による大規模な食中毒事例のように、生食用野菜には思わぬリスクが潜んでいる可能性がある。風評被害等が生じないように十分に配慮しつつ、適確な情報提供を行う必要があると考えます。
	○	○	△	○	○2	○	・我が国では、平成8年に話題になった「カイワレダイコン」を契機にスプラウト類の微生物汚染が関心事となっている。しかし、これらの情報は、都民に深く浸透しているとは限らない。 ・東京都は、これらに関するさまざまな調査を実施済みであるのでわかりやすい情報にして、都民に広報すべきと考える。

題名	情報収集の視点			④検討に見合う情報か	⑤総合的な検討の必要性	⑥緊急な情報提供の必要性	自由意見
	①健康被害の未然防止	②危害の拡大防止	③正しい情報提供				
資料2-4 妊婦及び子供のカフェイン摂取 についてのリスク評価と摂取量 についての助言	△	△	○	○	○3	×	—
	△	△	△	△	△	×	以前に情報収集に取り上げられた。 ③、④、⑥カフェインによる被害について情報提供をするには研究や情報が十分かどうかの検討が必要である。低体重のみをカフェインと結びつけられるか。 データが十分なのか気になる。
	○	○	△	○	○2	○	—
	○	△	○	○	○3		また高カフェイン含有量の飲料等が普及している一方、食品安全委員会によるファクトシート、海外のリスク機関等における摂取基準等に関する情報が充実してきている。よって、都民に適切な情報提供が可能な背景は整っており、総合的な検討を行う必要があると考えます。
	○	○	○	○	○	×	諸外国では、ファクトシートの作成と公表が行われつつある。都民に対しては、これらの文献や行政情報の提供に留め、引き続き関連情報の収集に努めるべきだと考える。